

昭和三十一年六月二十六日招集（第二号）
第二回定例会々議錄

館山市議会第二回定例会々議録(第二号)

昭和三十七年六月招集

一六月二十六日(火曜日)

議事日程 (第二号)

議案第三六号 館山市ユースホステル条例の制定について

第一 議案第三七号 特別会計ユースホステル歳入歳出予算を

設けることについて

議案第三八号 昭和三十七年度館山市特別会計館山ユ

ースホステル歳入歳出予算

第二 臨時出納検査人会議員の互選について

第三 議案第三九号 館山市教育委員会委員の補欠選任に

ついて

第四 議長選挙について

第五 副議長選挙について

第六 競輪議員選挙について

第七 議案第四十号 監査委員の選任について

第八 常任委員会委員選任について

二十六日 午前十時 開議

議長（嶋貫壮作君）本日出席議員数 三二名。

こよりより第二回定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

日程第一議案オ三六号乃至第三八号を一括上程いたします。

（書記朗読）

議案第三六号 館山市ユース・ホステル条例の制

定について

議案第三七号 特別会計ユース・ホステル歳入歳

出予算を設けることについて

議案第三八号 昭和三十七年度館山市特別会計

ユース・ホステル歳入歳出予算

福祉事務所長（長谷川広治君）議案第三六号乃至三八号について予説明申し上げます。

今まで関連的な予算として予審議をいたただいたものもありますので大体予了解を之小まいるやじやないかと思ひますが、一昨年度立のユースホステルを市として青少年の健全育成と観光施設の一つとして当市に誘致をいたしたわけでございますが、最近うちでま上りますし、経営をしなければならぬということになりましたが、誘致したときの経過及び数が全国的に少いために観光的にも一つの施設として利用できるといふような考え方が、また全国ユースホステルの経営的な考え方から地元でこれを県から委託を受けまして経営をしていく。そうして地

元の協力を得、観光的にも青少年の健全育成的な面でも十分利用していきたい。こういう考えに立ちまゝ委託を受けこれを運営したい。こういう考え方で三議案を提出し、わけでござい
ます。条例の内容といふしまゝは、第一条に目的が書いてございしますが、ユース・ホステルの目的と申しますか、主として青少年に健全な旅行を奨励し、低廉な経費で規律正しく宿泊させ交歓させるという施設ということが主になつておりますが、全国で二七カ所しかございせんので観光施設としてもこれを役立たせたい。こう考えております。

第二条は事業がかがげられておりますが、国で運営要綱として定められております事業を掲げ

たわけでございます。

三条、取買の関係でございますが、ユースホステル主任、こいが管理者ということになるわけでございますが、一応必要な取買を買くということでございます。現在委託を受けて経営する場合に、必要な取買が四名、そのうち二名を取買、二名を臨時的な取買というふうに考えております。こいは、他の施設に比べても人員が少ないのですが、全部セルフサービスと申しまして、自分のかつて自分でやつていくという制度になっております。

第四条、使用料、こいは、国が告示を——定められておりますので、その同額以内で決定をするということになります。私どもの方では、全国的なものも考え合わせ、国の告示額と

同額のものを使用料として徴収いたしたい。こう考え
まして、その小さな単価を計上いたしてあります。
第五条、委任関係でござえますが、利用する申込み
とか許可可、そういう事務的な細かいものは、市長
が定めるといふようなことでござえます。

附則として公布の日から施行をする。

第三七号は特別会計予算を設け、一般会計とは
離して独立採算制と原則として、経理を明確に
していくというふうな考えから、特別会計を設け
たい。こういう趣旨で提出いたしました。

三八号が予算でござえますが、七月一日から運営
をいたしたいという予算でござえます。

総額二百四十万ばかりでござえます。

歳入の方から申し上げます。事業収入として二百一

万四千三百円を考えた。これは、それぞれ附託に
 計上してありますから、大体全国の平均利用率と
 申しますから、泊つていただくような人たちの率
 を考えまして大体三割の方が利用できるとしてな
 いかという率を出して、それに基いてそれぞれ使用
 料を計算いたしております。ユース・ホステルは五
 四名が定員でございまして、年間を通じて最
 低三割の人が利用をするという考え方で宿泊料収
 入が七十三万三千円、それから敷布の使用料、ユース
 ホステルで使う敷布は、普通の敷布の二枚分
 その間に入つて寝るといふ変わった敷布を用いて
 おりますので、その使用料が十三万七千五百円、冬
 の期間暖房を炊きますから、この暖房の使用料
 が四万五千円、それから、集会室、食堂兼ホールに

なつておりましてそれが会議室に使用できます
のでこれが一万五千円、泊まるだけで自炊をや
る方もあります。その自炊料も計算いたしま
して大体一万七千円、食事をホステル側から提
供することもありますので、その食事料を予想
算定をいたしまして、百六万五千六百円、総額
事業収入二百一萬四千三百円の積算をいたし
ました。雑収入は不要品の売払い代金二千七
百円、繰替金戻入は遊興飲食税がかかるような
場合もありますのでそれを考慮して千円計上い
たてております。雑入二萬四千八百円、これは、
売店の売上げ収入、売店は経営企画と申しま
すか、委託を受けまして手数料を徴収して収
入をするというふうな考え方で積算をいたし

た一万八千円、それから私用電話の料金が千八百円、その他雑収入五千円、というふうに考えまして総額で二百四万四千八百円というふうに計上いたしました。大体利用率三十%で出回りをあげてございしますが、現在までのところ、約千人の人が申し込みをいたしておりますので大体三十%以上になるのでは、ないかという予想をしております。

次に歳出、管理費として百九十六万六千四百四十円、これは全部経営費になります。人件費関係で給料が二十二万七千七百円、これは大体本庁の主任給の人をユース、ホステル主任としてお願いをする。それから事務員が一人、あとはサービスをしてくれる人を二名臨時でお願いをする。その経費

等がおもひなうでございます。

旅費として三万、取戻手当は、附記に明記してありますのでゆり承願いたいと思ひます。

需用費関係で百四十八万四千四十円、このうち人件費以外のものは消耗品として七万五千円、これは新しい仕事でございますのでいろいろな消耗的なものが本年度かかるわけですが、事務用の消耗文具費が一萬八千円、事業用の消耗器材費、事業用と申しますと敷布を洗う石けんとか紙とかそういうことまごまごしたものでございしますが、月々三千円というふうになさえまゝ二万七千円、南所式、記念品代三万円、燃料費が十六万二千円、これは炊事、食事を提供する場合の燃料、風呂をたく石炭代、そういうものを合わせまゝ大体十六万二千円、食糧

費六万八千五百円、事業用の食糧費、茶葉代九千八百円、印刷製本費と一七万五千円計上いたしました。これは、ユース・ホステルが案内パンフレットの印刷代でございまして五万五千円を積算しましてこの範囲内で適当なものを作つていきたいという考え方でございします。それから事務用のいろいろの許可書とか申込書とかそういうものの印刷費一万五千円、光熱水費で八万一千円、これは水道は井戸でございしますので電気料だけでございします。

大体月九千円位というふうに積算いたしまして、通信運搬費一万四千円、それから附記の通りでございします。広告料と一七千円、これは一回新聞広告をいたしたいというものでございします。手数料

と一萬円水質検査の手数料と食事を出しま
すので營業関係の諸届出の費用を九千五百
円、合計一萬円。 借料及び損料四千円、ラジオ、
テレビの聴視料でございます。 委託託費の
五百円、存目程度でございます。 修繕料一萬五
千円、これはボイラーとかそういうものが修理を
するということまで行かないと思うのですが、素人
がボイラーマンというふうなことになるようです
そういうものも考え合せてまゝ、最悪の場
合も予想し一萬五千円計上いたしました。
工事請負費と一萬四千四百円、これは前に花壇
を少し、それから、広告の看板を建てたいとい
う考之方で計上いたしました。

二五節、備品費、十八万円、大部分県の方でそろえ

まございしますが、大きな品物としてテレビ、ステレオ等が入っておりませんので、そういうものとこまごました下駄とかそういうものも合わせてまゝ大体十八万円の範囲内で購入をして経営いたしたい。こう考えております。

原材料費五十六万四千七百円、これは収入に食料料として入っております百六万五千六百円、五三%に当る額を原材料として積算し計上いたしたわけまございします。この食糧の原材料費は、普通の場合でございしますと収入の約五十%というのが普通でございしますが、ユース、ホステルの食事は単価が非常に安いということも考え、三%だけ原材料を多くかけるという考え方で五三%の額を積算いたしております。施設費は存目の額でございします。

賠償及び償還金として千円、これは、宿泊した場合
ホステル側の責任において何か賠償しなければ
ならないような事故が起きた場合の予備費
として千円、利子及び割引料として一万円、こ
れは業務開始と同時に備品等が必要になつ
てきますので、一時借入金をやる場合がある
かと考えまして、その利子として一万円計上
いたしました。

三二節 負担金補助及び交付金五千円、これは、
ユース・ホステル協会とかホステル連絡協議会
等の負担金でございます。火災保険料が千
円、繰替金千円、存目程度でございます。
予備費として七万六千六百六十円を計上いたし
まして歳入に合わせたいものでございます。

大体、その積算は利用率三十％でおこなうので
す。現在の状況から若干上回るといふよう
な考え方もあります。はば赤字でなく、初年
度から黒字になつていくのではないかといふ
うに考えられます。

以上概略の説明申し上げました。

・二五番(脇田順一君)お伺いいたします。ユース・ホステル
の趣旨等は了解いたしましたし、受け止め、この一に
低廉な値段で経営すれば或いは赤字がまざるかも
知れません。市長は果からユース・ホステルの経営を
委託されるに当りまして、赤字続きの場合は何
とかするといったような約束があるのか、その点。
市長(田村利男君)約束してありません。

・二五番(脇田順一君)そういったしますと、これでもって甚し

くもうけるというふうなことは趣旨に反しますけれども永く財政の一つの汚点となるかも知れません。そういうことに対する市長の見通しは、どうぞございますか。

○市長(田村利男君)市といたしましては、先に鳩山社にたいしても一かりでございしますが、少くとも青少年の育成や青少年教育というふうな問題をからみ合わせて現在一中、二中、四中、豊房中等の行なっております二泊三泊の合宿教育というふうなこともあり、そういうふうなものにも利用するためには、若干の赤字になってもいいではないかという、一いついえばこの予算を張るに当りましては長谷川所長に繰出金を二十万か三十万出して方がいいのではないかというのをいったん

ですが、既に三六五^日の三十%、一コマ人位で三十%になるわけですが、この三十%に当たるもうが南業一ないうちから上回っている。まだ、あと九月、十月秋から冬にかけてのよそからくる利用者を計算しないうで大体やつていけると思いますが、私の考えとして、こういう施設に対してまゝでは、例はちうとどうかと思ひます。船形、布良の公益債屋とやや同じような性質をもつて相当の繰出金を出しても市民並びに一般の用に供したい。このように考えられているわけでございます。

一七番(志村信作君) 先ほどユース・ホステルの収容人員は五四名とおっしゃったが、ベットの数が五四あることですか、それから集会室はいくつあつて、時間的にお借りする収容人員は何名ですか。また自炊一回二十四

と申しますのは、自炊の道具がいくつ備えてありますか。

・福祉事務所長（長谷川広治君）お答え申し上げます。

ベッドの数が五四ということでございます。泊まる室は十室でございます。集会室は食堂と兼ねるおるわけですが、一室でございます。大体五四人の人たちが食堂で食っても困らないということになつておりますが、会議の目的で使う場合には、約一〇〇人位収容されます。これは一日二十四という単価でございます。それから、自炊は、三カ所へ器具が設けてございます。一人で自炊する場合もあり、りますし、十人位で自炊する場合もございますが、大体三十人が自炊できるといふような施設でございます。

一七番(志村信彦君)了解いたしました。次にユース、ホステルの制度についてお尋ねいたしますが、これは、会員券がいることだと思います。この会員券は、どういうふうにいただくものであるか。またこれは、日本国内全部共通の宿泊がでると思います。更に同一設備のある諸外国にまで通用でるのではないうか、と思います。その辺をお尋ねいたします。

・福祉事務所長(長谷川広治君)お答え申し上げます。会員証と申し上げますのは、ユース、ホステルとは、直接関係ございませんで、ユース、ホステル協会という協会がございまして、そこで登録をし、会員証を交付しているわけでございます。

館山市のユース、ホステルでもその事務の取扱いをいたしたいというふうに考えております。これは、少年、成年

そういうふうに区分がござえます。その会員証を
持つておけば一定の料金で宿泊できるということに
なつております。ただ公立の場合には予約をし
室があいゝおれば会員以外の人でも泊めるという
制度になつております。この制度は世界各國共
通でございます。全世界通用できるということで
ござえます。

・一番(山本昇君)まことに結構な施設でございます
こゝが運営を市に委託されて市が運営をする
ということにございます。もとより賛成でございま
するが、ただ先ほど脇田議員からもちふつと質問
をしまして、あまり大きな赤字が出てゐる。市
民の財政負担が大きくなるということになりま
す。こゝまで考えつゝはいけません。ーかしな

がら、現在う状況では、先ほど申し上げ説明うあつたように、大分沢山申し込みがあるというふうなお話でございますが、私の聞いた話では、初めの一年、或いは二年目におきましては、利用率が多い。しかし、だんだん年月がたつに従いましてこの利用が少なくなつてくるおるといふようなことも聞けるおるとございします。ほかのこう一に施設に對しまするその利用の状況、見通し等について、中説明願いたい。それから、更に市費の持出しといふことにつきまして、私は、私、これを基盤といひまして、館山地区の開発、紹介、さらに青少年の健全な育成という立場におきまして、多分の負担もやむを得ないとか、ように考えるおとあります。ただ、これが運営と、いいます。そう一たものにも、誤りがありま

一、経営の責任に当る方の態度、或いは従業員の気持ちにおきまゝ、だんだんさうなものが減るといふようなことになりすすと、こゝろたきあめる遺憾の状態が発生するのではなからうかとかように考へますが、この経営運営の基本的な方針につきまゝ、合めせてや答弁願ひたいと思ひます。

・福祉事務所長(長谷川広治)お答へ申し上げます。利用率がだんだん下つてくるのではないかというように、意見も承わりまゝだが、全国で四二七カ所のうち二一カ所、いろいろや回答をいただいたものから考へていきますと、年々利用率はふえていくといふような状況になつております。ただ一部古いと申しますが、三三年から始まつたわけでございますが、三三年にござります、京都、大阪等は

人件費が非常に多くなっておりますし、私どもでいうホステル主任という方が都庁、或いは府庁でいうところの局長級がなっております。そうしますと八万、九万という一人分の人件費でございますが、そういうことで赤字になつてゐるところもございまして、利用率の方ではだんだん上昇してゐるような状況でございます。

経営の基本的な考え方でございますが、原則として、はいわゆる旅館ではないというふうな考え方をもちわけでございます。それと同時にきた人を楽しくまた健全な面で遊ばせて帰す。そうしてまたまたいたゞくというふうな考え方から接客的態度、そういうものは、十分注意をし、また地元の人たちの協力ということは、くるお客さんに

随分、提供するわけでございます、物品の購入等は、なるべく地元の人にやらせる。そういうふうに業者合めせまして市と地元の人たちとともにユース、ホステルに決心を持ち、またサービスに努めるといふようにしていきたい。かように考えております。

一番（山本昇君）只今、所長さんの説明ではぼろ解いたしまいたが、他の施設の利用率がだんだん上つてゐる。何か数字的に納得いける数字がお示し願えますか。

更に市長さんにお尋ねいたしますが、市長さん先ほどこゝが運営につまみましては、市内の小中学校の二日乃至三日の合宿という施設にも使わせるのだ。かようなお話がございまして

たが、そういう場合には今まで各々学校でやった場合に学校の施設を使つた。大一の費用もかかつていない。ところが、こゝを使わせるということになりますとこゝをただで使わせるかどうか。規定通りの費用を取るということになりますといわゆる市民の家庭にそれだけの負担をかけるということにどううと思ひます。この点のかね合ひといひまう方が考え方につきまうて説明願ひたい。

市長(田村利男君)こゝは、市が経費をまゐりますので、ざつぱらんに申しますと三百五十万の費用で泊めるといふことで、ひとくとも学校の校長が承知した。また管理者が適切と思ひゆる額によつて市内の小・中学校の学生たちは、収容できると思ひ

ます。しかし、小学校の裁縫室とか、板屋間にむ
しろをいって泊まるということではなく、二段、三
段ベツトでできた規律正しい宿泊施設に泊まる
訓練をするということとでその辺はあくまでも校
長と相談の上で食費と幾らか位のもうでもつとい
えば十月か九月かひまなときに利用し、無理な
ないところでできるわけでございます。そういう
経費の問題は市相談に応じられると思うわけ
でございます。先ほど赤字がでまうまう
しうかないときは、市の財政に負担を生づる
ことになりはしないかという市に配するが、そ
ういうときに市が負担がかかっまうしうかないか
ら、お返しますと、こちらから一年ぶりに申し出
れば景が引き取ってくれることになります。

福祉事務所長（長谷川広治君）資料はございますか。一部ーかございませんで後日……

二四番（飯田義男君）こは、無償で県から借りてあるように思うのですが、ただ私のお伺いしたいのは、今後破損、その他備品も更新、そういった問題が当然出てくると思っています。増改築の問題も出てくるでしょうし、火災、その他災害のためにこはが損出する場合も出てくるのではないかと、このように思います。そういう場合に経費はどちらでもつか。それからもう一つ宣伝料がここ一千円だけ書いてあるのですが、ほとんど存目程度で宣伝の必要はないからいいんですが、その二点について。

福祉事務所長（長谷川広治君）あとの方からお答え申し上げます。

げます。宣伝の方は現在のところ、私の方としては施設存在、或いはどういう施設かという簡単なパンフレットを五万五千円の範囲内で作りたい。それから看板をユース・ホステルの建っている附近に一個、駅に一個程度建つたいということでございます。あとの宣伝は、国々と申しますか、全国的な団体でございます。ユース・ホステル協会の方で全部をやってくれるというふうなことになるかと申します。で特別な宣伝と申しますか、金を使つたの宣伝は、うちの方としましては、取らないという考え方でございます。

管理上いろいろな点でございしますが、建物を借りるものは、無償、管理をいそぐ経費はユース・ホステルの経費の中からそれぞれ出していくという

二 負 担 請 求
考えて契約を結ぶたい。増築とかそういうような場合に県の建物でございますので県が負担をする。ただユース、ホステルの経済的な面で赤字になつておれば、その額を考慮し、その中から多分のものを投入をするというふうなことでどうかという話し合ひでございます。

備品等の新しいものを購入して行かなければならぬ。こういう点につきましては、大体備品と申ししましても給食関係のものか大部分でございます。こゝは、額にするとごく少額でございますので、普通のユース・ホステル予算の中から購入して大きなものになつた場合にのみ、県と話し合ひをし、決定をして行きたい。こういう考え方でございます。

大災保険料は、市が名前で入りまして市の名前で保

險を受け取る。こういう契約を結びたいという考
えでございます。

。三五番(黒川佐太郎君)本案は、大変結構なことで大抵
市長の考えでよろしいと思います。ただ一つ伺いたい
ことは、黒字の場合を考えまして、かく市が苦勞を
してやつて黒字になった。それをこっちの意思に
反して県が返還せよというふうな場合がありは
しないかということをお察しておりますが、その点は
どうなっておりますか。

。福祉事務所長(長谷川広治君)黒字の場合には、あそこ
いろいろ施設を拡充していかうと、ユース、ホステルに
関連をしてバンガローを経営するとか、そういうことで
県に吸い取られるということはおございせん。

。三五番(黒川佐太郎君)そうじゃなく黒字になつて運営費

理を県が引上げる。こういう憂いがある。ないか。
・市長(田村利男君)県側と折衝いた。ま。た際には、県の役人を布良まで島に流してきない。だから何とか館山市でやってみる。そういうようなことで市が無理に頼まいた。ということでございます。文書で交換はしてございせんか。ともや。そんなことは、ないと思います。

黒字ということば、さっき所長のいったように黙つてバシガローを建つて。ま。え。ば黒字でないから、という計算書を出しますから県には、わからない。もともと遠隔のところでありまして、何とかやつて貰いたい。県では、やれないというのか。む。こうの考えでございますので、黒字になつたから県でやるということば、文書ではないけれども、そういうことは、ないと思います。

・三五番(黒川佐太郎君)只今、市長の答弁が大体わかり

まゝだが市長の申してなるうは、現在う姿です。しかし、社会は、どう変動するかわかりません。その点一考えて含んでおいていただきたい。

○二九番(萩生田七郎君)大変景気のいい答弁で従来の努力に対して敬表をはらうものですが、しかし、再確認したいことは、改築修繕というもうけ、県がもつ、不時の災害における大きな修繕、その場合も県がもつわけでございますか。

○市長(田村利男君)その点は県と相談して行かうという文書で取りかわっております。暴風とかそういうことだったら県でやる、しかし、乱暴な学生がガラスを三四枚割ったという点については、学生に弁償させるか、或いは、市が修繕するかという点で大破壊の場合は県と相談して県が責任をもち

つという文書を依つて契約したいと思ひます。

○二九番(篠生田七郎君)わかりました。そこで私懸念するの、私自身京都のユース・ホステルを拝見したのであります。が、経理内容をお伺いするが、人件費が高いということも最大の原因かもしれません。しかし、ああいう観光地である京都ですら大赤字を出してゐるということは、人件費のみならずP・Rが足らぬということもありはしないかと思つてあります。が、いずれにしましても大きな赤字を出すという今後の財政負担というのが容易じゃないと思ひますから、その点を十分留意なさつて格段の努力をもつてこの運営に当たつていただきたいということをお願いいたします。

・議長(鳩貫壯依君)議案才三六号、乃至才三八号討論者略原案通り可決いたしますことに于異議ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

・議長(鳩貫壯依君)于異議なしと認めます。よろ原案通り可決さしませう。

日程才二臨時出納検査立会議員の互選を議題といたします。

おはかりいたします。選挙の方法は指名推選の方法によりたいと思ひます。こゝに于異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(鳩貫壯依君)于異議なしと認めます。よろ選挙は指名推選にすることに決まらう。

重ぬておけかりいたします。指名の方法は議長に
おいて指名することになっていきたいと思います。

これに片隻議ありませんか。

(「隻議なし」と呼ぶ者あり)

議長(鳩貫壮作君)片隻議口と認めます。よって議
長において指名することに決まりました。

暫時休憩いたします。

午後十一時十五分 休憩

午後十一時三十分 再開

議長(鳩貫壮作君)休憩前に引き続きまゝら会議を
開きます。

これから指名いたします。

四番議員 小林寅之助君 九番議員 吉田勇治郎君
二七番議員 鈴木市藏君 三三番議員 山口幸三君
以上四君を八月実施の臨時出動検査之会議員に
指名いたします。

おわかりいたします。只今指名の四議員君を当選人
と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(鳩貫杜作君)御異議なしと認めます。さう決し
ました。

只今追加議案として議案才三九号、教育委員の補充
選任についてお送付されました。

おわかりいたします。本議案を本日付の日程に追加し
直ちに議題といたしますことに御異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(嶋貫壮作君) 市要議なしと認めます。よろしく日程は追加されました。

議案を配付いたさせていただきます。

(議案配付)

議長(嶋貫壮作君) 配付漏れございせんか。ーなしと認めます。議案オ三九号を上程いたします。

(書記朗読)

議案オ三九号

館山市教育委員会委員の補欠選任について

市長(田村利男君) 教育委員の川名浩君が突如として急逝されたわけでございます。従いまして市の教育委員五名のうち一名、欠員に陥ったわけでございます。教育行政におきまして、一段と緊急を要する今でありますので、一日も欠員にすることほごできませんので

この際、教育委員を一名補充したいと思うわけであり
ます。つぎまゝでは、北条八六四番地の半沢良一
君を推薦したいと思うわけでございますので、市会
の皆さんの承認を得たいと思います。

半沢良一君のことをちよつと申し上げます。半沢
良助というお父さんが第一回の市会議員でござ
いまして、その長男でございます。安房中、東
京一高、今の東大を卒業いたしまして、現在「仙
齡」酒屋の社長でございます。

・議長(鴻貫社依君) 議案第三九号、原案通り可決いた
します。中々異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(鴻貫社依君) 中々異議なしと認めます。よつて
本案は原案通り可決いたしました。

休憩いたします。

午前十一時三九分 休憩
午後三時五二分 再南

・議長(鳩貫壮作君)休憩中に引き続き会議を南めます。
このたびは一身上下都合により議長より取を辞取いた
したいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいた
します。

(議長鳩貫壮作君退席)

(副議長安西政治君議長席に着く)

・副議長(安西政治君)議長鳩貫壮作君から議長の辞
取願ひが提出されました。

おはかりいたします。こゝ際議長辞取の件を日

程に追加し、直ちに議題といたしますことに仰異議
ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(安西政治君) 仰異議なしと認めます。さう
議長辞取の件を日程に追加し、議題といたします。
辞取願いを朗読いたします。

・事務局長(高梨清一君)

辞取願 議長 鳩貫社作

私事一身上の都合により、議長への取を辞取いた
したく、仰許可下さるようお願いいたします。

右 鳩貫社作 館山市議会殿

・副議長(安西政治君) おはかりいたします。鳩貫社作
君の議長への辞取を許可することに仰異議ござ
いますせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(安西政治君) 中異議なしと認めます。さうで
鳩貫壯作君の議長長の辞職を許可することに決
一まーた。

この際鳩貫壯作君より、発言を求めらるゝありま
すので一ばらくこれを許します。

(十二番議員鳩貫壯作君 登壇) (拍手)

十二番(鳩貫壯作君) 満場一致で中許可をいただきます。
まーそ有難くお礼申し上げます。

一年間、何やかやと中面倒を付けてまことに相済み
ませんでございまして。おかげで大禍なく過さすこ
とができまして、たことは、ひとえに皆さん方の中後援
と中鞭達う賜と深く感謝申し上げます。次才でござい
ます。簡単であります。中挨拶にかえさるゝい

たできます。(拍手)

・副議長(安西政治君)只今、議長が欠員となりまして、おはかりいたします。この際議長の選挙を日程に追加し、直ちに選挙を行いたいと思ひます。これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(安西政治君)や異議なしと認めます。さう議長の選挙を日程に追加し、これより選挙を行います。選挙の方法については投票にすることと指名推選にすることとがありますが、どの方法によりますか。や意見を伺ひます。おはかりいたします。選挙の方法は、投票にすることに決めますにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(安西政治君)「是議なしと認めます。よつてこゝれより議長が選挙の投票を行います。」

議場の肉體を命じます。

(議場肉體)

・副議長(安西政治君)「只今の出席議員数三三名であります。」

おわかりいたします。

会議規則第三十條第二項の規定により五人を選定したいと思ひますが、いかなる方法によりましようか。議長が指名にすることに仰る議長でございますか。

(「是議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(安西政治君)「是議なしと認めます。」

一三番議員 安沢徳順君、二四番議員 飯田義男君

而君を指名いたします。こゝに於て異議ござい
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・副議長(安西政治君) 於て異議なしと認めます。よつて決ま
—に。投票用紙を配付いたします。

(投票用紙配付)

・副議長(安西政治君) 投票用紙の配付漏れはありませんか。
—なしと認めます。投票箱を改めさせます。

(投票箱点検)

・副議長(安西政治君) 異常なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は、無記名であります。
投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、点呼に元
いて順次投票願います。事務局長を—と点呼
いたします。

・事務局長(高梨清一君) 山本昇さん、石井孝さん、

三沢節さん、小林寅之助さん、江田徳太郎さん、

鈴木彦太郎さん、吉田勇治郎さん、佐野信さん

嶋資壮作さん、安沢徳順さん、法木嗣郎さん

嶋田繁さん、遠山ヨネ子さん、志村信作さん、

田中忠藏さん、北山茂雄さん、後藤ゆきさん、田中

禄郎さん、吉田辰雄さん、飯田義男さん、脇田順一

さん、岩崎静敬さん、鈴木市蔵さん、加藤良太郎さん

萩生田七郎さん、長谷川光江さん、田村喜兵衛さん

鈴木孝さん、山口幸三さん、松本藤太郎さん、里川

佐太郎さん、山口康さん、安西政治さん、

・副議長(安西政治君) 投票漏れはありませんか。——なし

と認めます。投票を終了いたします。

こゝより南票を行います。立会人の参会を願います。

(開票)

副議長(安西政治君)只今の選挙の結果を報告いたします。

投票総数 三三票 投票者数と一致いたします。
有効投票 三三票 無効投票なし。
有効投票中

山本昇君 一七票

田中祿郎君 一六票

以上の通りであります。

この選挙の法定得票数は、九票であります。
よって山本昇君が議長に当選されました。
議場の閉鎖をとります。

(議場閉鎖)

副議長(安西政治君)この際議長山本昇君を紹介い

たいます。

(議長山本昇君登壇) (拍手)

議長(山本昇君) 本日行われまして館山市議会の議長選挙に当りまして、不肖山本再び選ばれまして議長に選出されまして感激、こう上もございせん。厚くお礼申し上げる次第でございます。もとよりふびんう身でございまして、皆うま方う心からうゆ支援、ゆ協力をいただきまして、館山市議会、本来の姿に向いまして、議会の權威高揚とさらに館山市の振興と市民の福祉のために微力をさまげたい。かうに考えたりしますので何とぞよろしくゆ支援うほどをお願い申し上げまして、甚だ簡單でございますが、ゆ挨拶申し上げる次第でございます。(拍手)

(議長山本昇君議長席に着く)

議長(山本昇君) 只今市長より監査委員に決する
追加議案を提出いたした旨の申し入れがござい
ました。

暫時休憩いたします。

午後四時十三分 休憩
午後五時四九分 再開

議長(山本昇君) 休憩前に引き続き会議を開きます。
おわかりいたします。本日午会議は議事の都合によりこれを延長いたしたいと思っております。
これに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) 中異議なしと認めます。

さう、会議時間を延長することに決まりました。
暫時休憩いたします。

午後五時五十分

休憩

午後七時三十分

再開

議長（山本昇君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

副議長安西政治君より、副議長の辞任願いが提出されました。

おわかりいたします。この際、副議長辞任の件を日程に追加し、直ちに議題といたしますことに、中々議がございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(山本昇君)中々議なりしと認めます。よって副議長
長辞取の件を日程に追加し、議題とすることに決
まします。

(副議長安西政治君退席)

議長(山本昇君)辞取願いを朗読いたさせます。

事務局長(高梨清一君)

辞取願い

私事一身上の都合により副議長の取を辞取
いたします。許可下さいますようお願いいたします。

右安西政治

昭和三七年六月二十六日

鑑山市議会議長殿

議長(山本昇君)おわかりいたします。安西政治君の
副議長辞取を許可することに中々議ございせん。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（山本昇君）宇異議なしと認めます。よつて安西政治君の副議長に辭取を許可することに決しました。この際安西政治君より發言を求められております。暫時これを許します。

（一八番議員 安西政治君登壇）

一八番（安西政治君）只今は、私のお願いを許可していただくよりありません。

過去一年間にわたりまして、非力ではございますが、皆さま方のおかげをもちまして、副議長の方をどうやら努めましていただくこと、心から感謝申し上げる次第でございます。今後とも劣續達のほどをお願いしまして一言お礼の言葉にかえさしていただく次第でございます。

どうも有難うございました。(拍手)

議長(山本昇君) 只今副議長が欠員となりました。

おわかりいただけます。こゝ際副議長の選挙を日程に追加し直ちに選挙を行いたいと思ひます。これにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) や異議なしと認めます。よつて日程は追加されました。

こゝより副議長選挙を議題といたします。

選挙の方法は投票、指名推選等があります。この方法にいたしましうか。や意見を伺ひます。

(「指名推選」という声あり)

議長(山本昇君) 指名推選の方法にふることによつて異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)中異議なしと認めます。よって副議長選挙の方法は指名推選にすることに決まします。重ねておわかりいただけます。指名の方法は、安西政治君において、指名することにいたしました。こゝに中異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)中異議なしと認めます。よって安西政治君より指名することに決まします。

(一八番議員、安西政治君登壇)

一八番(安西政治君)副議長指名の大任をおおせつかりまします。最も適任と思われる人を推薦いたします。

協田順一君を中推薦申し上げます。よろしく

お願いいたします。

議長（山本昇君）おはかりいたします。只今安西政治君
において指名いたしました脇田順一君を副議長
の当選人と定めます。中々異議ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）中々異議なしと認めます。よって脇田
順一君が副議長に当選されました。

こう際、副議長、脇田順一君を紹介いたします。

（副議長脇田順一君登壇）

副議長（脇田順一君）一言中挨拶申し上げます。浅学
非才の身にもかかわらず皆さま方の中々推薦により
まして、今回はからずも副議長の恥を汚すことにな
りました。今後議長の方役といたしまして
当館山市政の運営に粉骨砕身努力を傾けた

いと思ひます。よろしくお願ひいたします。(拍手)

議長(山本昇君)ハ市競輪組合議員 鈴木市藏君
には、このたび都合により組合議員を辞取つた
まいに、よつて本市より選出すべき議員が欠
員となりまいに。

おわかりいたします。ハ市競輪組合議會議員
の補欠選任を直ちに議題といふことに、市
議でございますんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)市異議なしと認めます。よつてハ市
競輪組合議會議員選挙を日程に追加し議
題といひます。選挙の方法については投票
または指名推選によるもの等がありますか、市
意見を伺ひます。

おはかりいたします。選挙の方法は、指名推選に決めますことにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)や異議なしと認めます。よって選挙は、指名推選によることに決めます。

重ねておはかりいたします。指名の方法は、鈴木市藏君において指名することにいたしたいと思います。こゝにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)や異議なしと認めます。よって鈴木市藏君より指名することに決めます。

(二七番議員 鈴木市藏君 登壇)

二七番(鈴木市藏君)長々一年間、どうも有難うござい
ました。只今、指名さしてもら、私から恥かくな

方を推薦いたします。

山口幸三君をよろしくお願いいたします。

議長(山本昇君)おわかりいたします。只今、鈴木市蔵君において指名いたしまして、山口幸三君を八市競輪組合議会議員、当選人と定めますことに、
市見議ごぞいせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)市見議なしと認めます。さうして、山口幸三君が八市競輪組合議会議員に当選さるゝに、
この際、八市競輪組合議会議員山口幸三君を紹介
いたします。

(三三番議員山口幸三君登壇)

・三三番(山口幸三君)このたび私のような浅学非文にも、
競輪議員に推薦下さることを辱くなれ申し

上げます。私も微力ではございまするが、館山市
の委員として恥かきないよう誠意を持って努力い
たす考えでございます。何とぞ今後ともよろしく市
指導と申す鞭達あらんことを切にお願いたします。私
申す挨拶といたします。

よろしくお願いたします。(拍手)

議長(山本昇君) 只今市長より追加議案として議案第四
十号監査委員の補欠選任についてが送付まいした
おはかりいたします。本議案を本日の日程に追加し
て直ちに議題といたします。申す異議ござい
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) 申す異議なしと認めます。よって日程
は追加まいした。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

議長(山本昇君)議案の配付漏れございませんか。
なしと認めます。

議案才四十号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四十号 監査委員の選任について

市長(田村利男君)市議会議員の中から選ばれます監査委員のうち、大員が主になり、たうで、議会が同意を得て、田中祿郎君を選任いたしたいと思います。よろしく御審議願いたいと思います。

議長(山本昇君)只今議題となり、たうで、議案才四十号、市長の提案に同意することに、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君) 此異議なしと認めます。よつて本案は、原案通り決定いたします。

この際監査委員に選任さします。田中祿郎君を
此紹介申し上げます。

(三二番議員田中祿郎君登壇) (拍手)

・三二番(田中祿郎君) 只今皆様方満場一致をもちまして
市の監査委員に任命さしたうでございます。もと
より浅学非才の私でございますが、その任でないとい
うことは、自分でも承知しておりますが、皆さまで方に此推
薦を受けた以上、駄馬にむち打ちまいて邁進する決意に
ござりますから、今後よろしく此指導賜わりますよう
にお願ひ申し上げまして、私此挨拶といたします。(拍手)
・議長(山本昇君) この際おはかりいたします。

かねて申し合ひせ、協定通り常任委員の改選を行ひたいと思ひますが、これを本日の日程に追加し、直ちに議題としたいと思ひます。これに片異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)片異議なしと認めます。よつて日程は追加されしなり。

おはかりいたします。常任委員会委員の改選を行ひますことに片異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)片異議なしと認めます。よつて改選することに決しました。

重ねておはかりいたします。この改選の決定宣告により現在の各常任委員会委員は全員それぞれ

辭取し、金委員会とも欠員となつたことにいたしました
すに市異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)市異議なしと認めます。よつて決
まりました。これより常任委員会委員を委員会
条例第四条の規定により選任いたします。
局長をして報告いたさせます。

・事務局長(高梨清一君)

総務委員会委員 遠山ヨネ子さん 長谷川光江さん

鳴貫壮作さん 吉田勇治郎さん 松本藤太郎さん

脇田順一さん 鈴木孝さん

経済委員会委員 田中忠藏さん 法木嗣郎さん

石井孝元 三沢節さん 安沢徳順さん

山口康さん 吉田辰雄さん 佐野信さん

安西政治さん 山本 昇さん

文教民生委員会委員萩生田七郎さん 嶋田 繁さん

飯田義男さん 田中 祿郎さん 後藤 ゆきさん

黒川佐太郎さん 小林寅之助さん 北山 茂雄さん

建設委員会委員志村信作さん 如藤良太郎さん

江田徳太郎さん 鈴木彦太郎さん 若崎靜敬さん

鈴木市藏さん 山口幸三さん 田村喜兵衛さん

議長(山本昇君)以上の通り各常任委員会、委員に選
任いた—たいと思ひます。こゝに於て異議ございますか。
か。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)於て異議ナ—と認めます。よつて決定
さした。なお条例才五条の規定による各委員
会に於いて互選された委員長及び副委員長を報告。

いたさせます。

・事務局長(高梨清一君)

総務委員会委員長

遠山ヨネ子さん

副委員長

長谷川光江さん

経済委員会委員長

安沢徳順さん

副委員長

吉田辰雄さん

文教民生委員会委員長

後藤ゆきさん

副委員長

北山茂雄さん

建設委員会委員長

鈴木市藏さん

副委員長

岩崎静敬さん

議長(山本昇君)

なお申し合わせにふります。議会運営

協議会の委員、並びに正副委員長を中報告申し

上げます。

・事務局長(高梨清一君)

議会運営協議会委員

二 負 山 一 青 木
松本謙太郎さん 飯田義男さん

遠山ヨネ子さん

三沢節さん

安西政治さん

鈴木彦太郎さん

佐野信さん

吉田勇治郎さん

同委員長

飯田義男さん

副委員長

三沢節さん

以上より通りであります。

議長（山本昇君）以上をもって本定例会を閉会いたします。

午後七時三十分

閉会

本日の会議に付いた事件

一、議事日程に同じ

出席議員

山本 昇

石井 孝

三沢 節

小林寅之助

江田徳太郎

鈴木彦太郎

吉田勇治郎

佐野 信

鳩 貫壯作

安沢徳順

法木嗣郎

鳩田 繁

遠山ヨネ子

志村信作

安西政治

田中忠藏

北山茂雄

後藤巾之

田中禄郎

吉田辰雄

飯田義男

脇田順一

岩崎静敬

鈴木市藏

加藤良太郎

萩生田七郎

長谷川光江

田村喜兵衛

鈴木 孝

山口 幸三

松本 藤太郎

黒川 佐太郎

山口 康

欠席議員

なし

出席事務局取員

第一日目と同じ

出席説明者

第一日目と同じ

右会議の次第を録しここに署名す

館山市議会議長

に 承

田中

同 署名議員

加藤 良太郎

同

長谷川 光江

